

地域とともにあゆむセントレア

centrair

中部国際空港の地域における役割

中部国際空港は、地域の熱い
思いによって生まれた空港

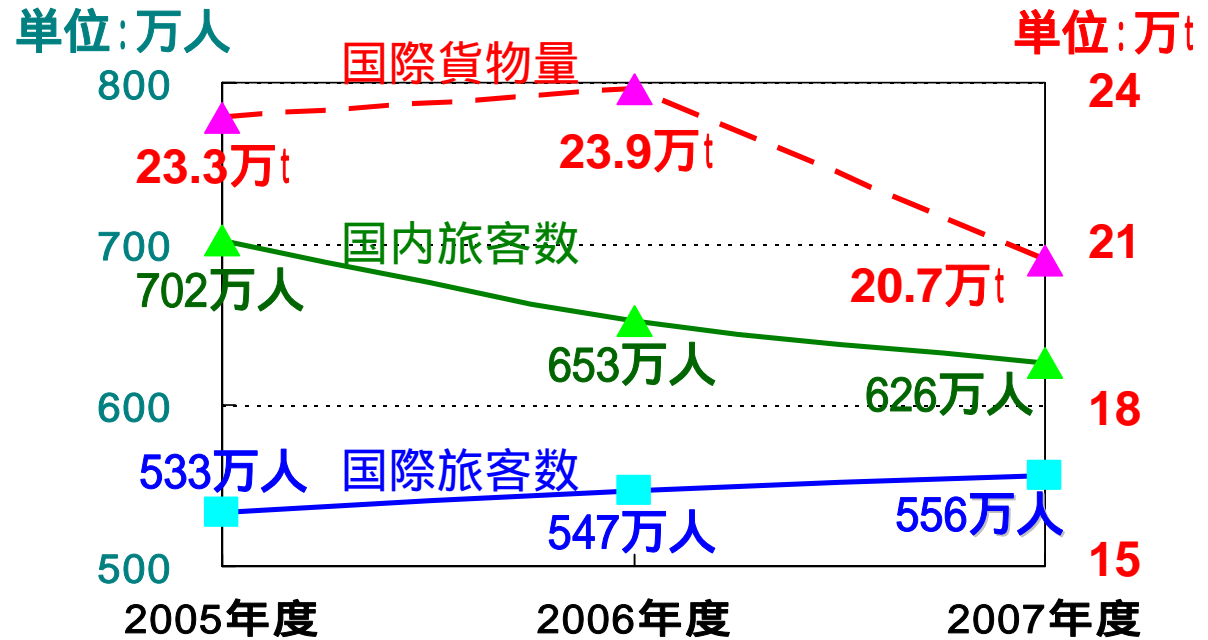


空港の競争力 = 地域の競争力

国家戦略や地域戦略と一体性を持って、空港の
魅力や利便性をいかに高めるかが、地域間競争
を勝ち抜く鍵。

旅客数・国際貨物量と便数の推移

旅客数と国際貨物量の推移



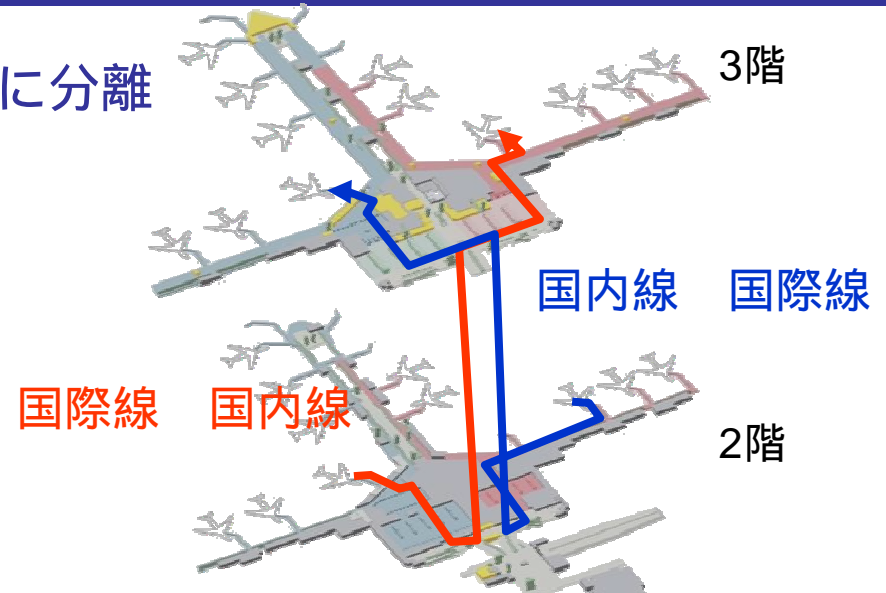
便数の推移

		開港時 ('04冬)	ピーク ('07夏)	現在
国際旅客	都市数	25	32	32
	便数(週)	267	354	342
国内旅客	都市数	24	23	22
	便数(日)	94	87	85
国際貨物	便数(週)	26	51	30

(季節運航の稚内便を含む)

お客様の利便性の確保

国際線と国内線を同じフロアの左右に分離



階層移動のない旅客ターミナルビル



身体の不自由な方、一般利用者などから意見を直接聞いて設計



全てのトイレに
手動の車椅子で
入れる



車椅子・カー
トと、歩行者
の幅を確保し
た動く歩道

2007年度バリアフリー化推進功労者表彰・総理大臣賞受賞 3

セキュリティ / セイフティ

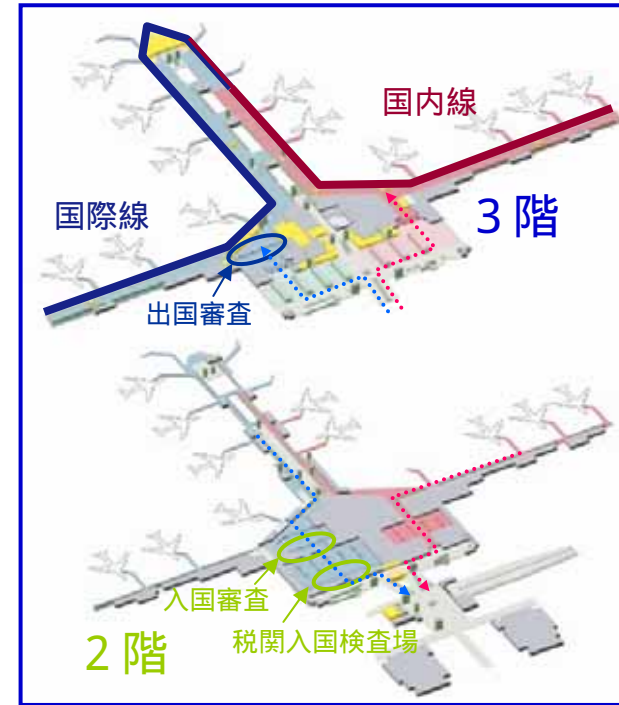
セキュリティ

ハード面

出発フロアと到着フロアを完全分離
侵入防止柵、フェンス
国際受託手荷物はインライン方式を採用

ソフト面

各種訓練
関係機関による危機管理委員会



セイフティ

バードストライク対策：ウミネコの大量飛来への対応

雪対策：雪国並みの除雪機材

濃霧対策：計器着陸装置（ILS）のカテゴリーIII化

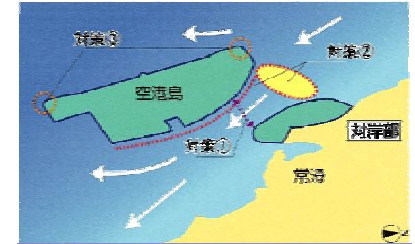
環境にやさしい空港として

1 . 環境負荷低減の追及

- (1) 国際環境規格 ISO 14001 の認証取得
- (2) 海域環境に配慮した空港島の位置・形状
傾斜堤護岸、藻場の造成など生態系の保護
- (3) 省エネ・省資源の推進
コ・ジェネレーションシステムの採用
太陽光パネルの設置、自然採光の活用
- (4) 低公害車の導入
電気自動車、天然ガス車、ハイブリッドカー
燃料電池バス（航空旅客用に使用）

2 . 環境監視

環境監視データ（航空機騒音、大気質等）をインターネット等で公開



地域と連携した空港の利用促進

中部国際空港利用促進協議会



愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
名古屋商工会議所 社団法人 中部経済連合会
中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co., Ltd.

代表理事：岡田邦彦 名古屋商工会議所会頭
川口文夫 社団法人中部経済連合会会長

地域と空港の連携

- 地元の観光素材を用いた旅行商品の造成を働きかけ
- 地元の教育旅行等を誘致
- 小学生を対象とした宣伝事業

等



エアポートセールス・航空ネットワーク拡大

- 地元企業によるセントレア優先利用の徹底（輸入貨物へのインセンティブ制度）
- 新規就航エアラインへの支援策の推進

等



セントレアを核とした地域の発展・活性化へ

空港を利用した地域の魅力の積極的な発信



知多木綿の機織体験



知多の物産店



写仏・写経体験



様々なイベント



空港内に地域の名物飲食・物産店を多数抱え、
また、数多くの地域イベントを開催し、
地域や日本の文化を日本全国及び海外に積極発信

県営名古屋空港との役割分担について

- ✓ 定期航空路線の中部国際空港への一元化については、中部国際空港設置の際の前提条件として愛知県知事と国との間で約束した原則。
- ✓ 県営名古屋空港は、ビジネス機など小型航空機を中心に活用されている状況。

昨今の路線再編の一環で、中部国際空港（JAL）と県営名古屋空港（J-AIR）とで併存している福岡線のうち、JALの中部 - 福岡線が来年3月末に運休。

定期航空路線の一元化の原則を踏まえ、両空港における適切な役割分担・協調を図っていく必要がある。

滑走路が1本であることによる空港運用上の課題

深夜便の受入れ促進と、滑走路の点検・補修、大規模改修

- ・点検のため、週2日、延べ9時間弱、深夜に滑走路を閉鎖。深夜便の受入れに制約。（タイ航空、エミレーツ航空など）
- ・約10年後の滑走路の大規模改修の際には、さらに大きな運用上の制約が生じるおそれ。

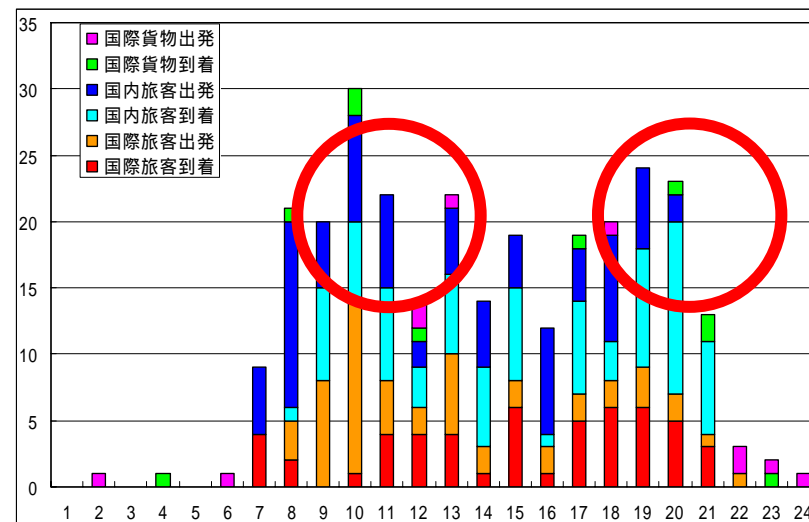


深夜の滑走路点検

滑走路上で不測事態が、空港閉鎖に直結

ピーク時間帯への対応

- ・朝夕のピーク時間帯の発着回数が、上限（32～33回/時程度）に近づく。

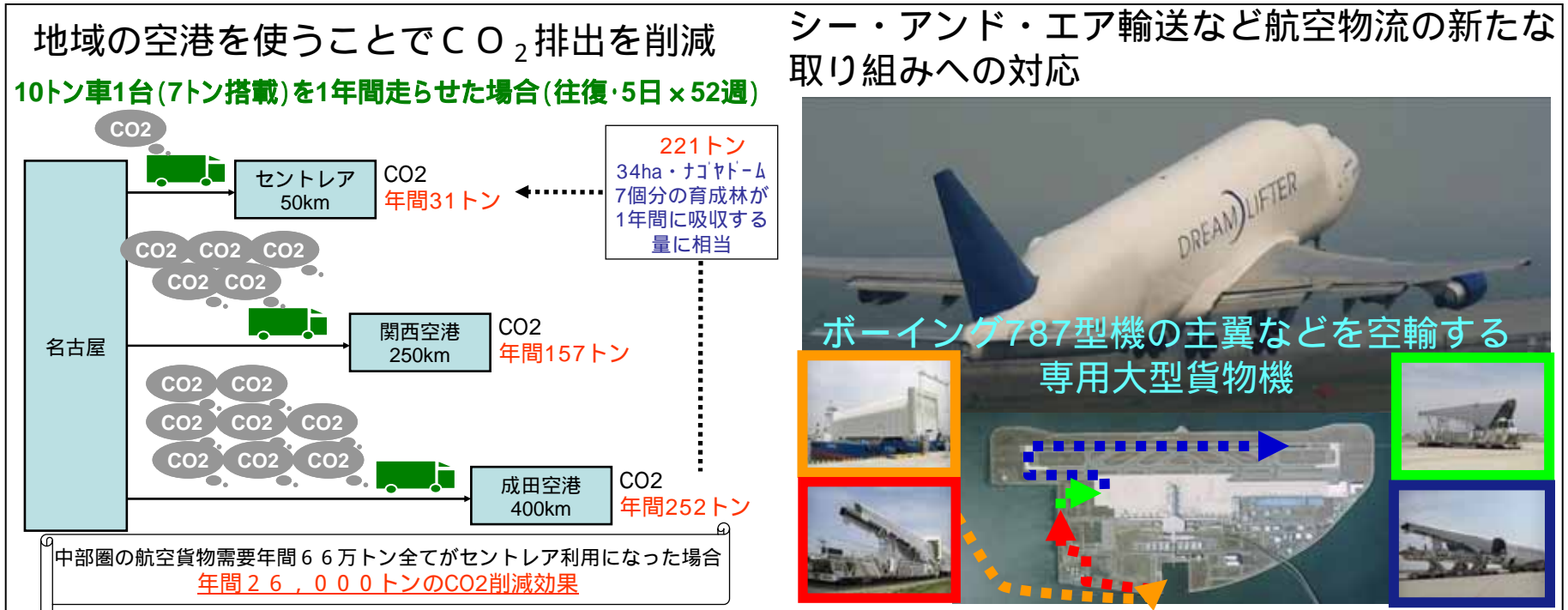


2本目滑走路の整備により、これらの運用上の課題への対応が可能

2 本目滑走路の整備による完全24時間化の必要性

日本経済の成長を支える中部圏が、その国際競争力を強化し、国際交流を拡大する上で、中部国際空港が本格的な24時間運用の国際拠点空港であることが必要不可欠。地域の発展のカギ、地域間競争に生き残るための基本インフラ。

「ものづくり産業」の一大集積地を支える貨物空港としての重要性



地域の航空物流を支える基本インフラとして、完全24時間化が不可欠

ご出席の皆様方への、
一層のご支援とセントレアのご利用を
お願い申し上げます。

The logo for Centrair, featuring a stylized blue swoosh above the word "centrair" in a bold, lowercase, sans-serif font.

こころときめくエアシティ

<http://www.centrair.jp>